



イヌサフランの花と葉



ウォーターリリー

夏から秋の散歩中に、やや気になることがあります。通常は花壇にあるはずの球根植物が、花壇ではない所で花を咲かせていることです。どうやら、球根を植えて回っている人がいるようです。花壇からチューリップやヒヤシンスの球根を持っていくのも問題ですが、逆に植えて回るのも困りものです。球根植物は誰かが植えないければ移動できないので、人が介在しているのは間違いないでしょう。その中で今回は、9月～10月にかけて花

を咲かせるイヌサフランを取り上げます。

イヌサフランはヨーロッパ中南部から北アフリカ原産の球根植物で、日本には明治時代に園芸植物として渡来しました。花茎を15cm程度伸ばし、アヤメ科のサフランによく似た派手なおしべ6個のピンク色の花をつけます。ヒガンバナと同じく、花は葉を知らず、葉は花を知らずのタイプで、秋は花だけ、春は葉だけになります。サフランも秋に開花しますが、葉と花が一緒に、おしべは3個です。

イヌサフランを園芸用に品種改良したものはコルチカムと呼ばれ、代表的な品種にウォーターリリーがあります。

また、この植物の大きな特徴として、球根を植えなくても日当たりのよい室内で花を咲かせることができ、花が終わってから植えても葉が出てくる便利さがあります。

ただし、イヌサフランは全草が強力な有毒植物で、球根を食べた犬の死亡例や、葉をギョウジャニンニクと間違えての誤食による人の死亡例もあります。きれいな花には毒もあると認識しながら、秋の散歩をお続けください。

※Kaceeのホームページでカラー写真をご覧いただけます。